

※官民連携まちづくりの取組と交付対象事業の両方を  
位置づけて作成するケースを想定しています

ひな形

# 都市再生整備計画

まる まる  
〇〇地区

〇〇県 まる まる  
〇〇市

令和〇年〇月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	★★県	市町村名	〇〇市	地区名	〇〇地区	面積	23.8	ha			
計画期間	令和 〇〇	年度	～	令和 〇〇	年度	交付期間	令和 〇〇	年度	～	令和 〇〇	年度

※青字は記載例です。  
また、下線部は官民連携まちづくりに関する事項を明示した箇所です。  
作成にあたっての参考にしてください。

<p><b>目標</b></p> <p>大目標：××地域の中心にふさわしい活気に満ちあふれた魅力ある都心の実現</p> <p>目標1：四季を通して快適に歩ける空間の創出による都心の回遊性向上</p> <p>目標2：魅力ある滞留空間・交流拠点の創出</p> <p>目標3：官民一体となった賑わいのある歩行者空間の創出</p>
---

<p><b>目標設定の根拠</b></p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針)を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>〇〇市では、昭和〇年のバイパス整備を契機に商業施設や病院等の郊外移転が進んだため、〇〇駅を中心とした中心市街地では空洞化が進み、都市としての求心力も低下している。一方で、中心市街地には古いまちなみなど歴史的資源も残されている。こうしたことから、〇〇駅を中心とした中心市街地において、民間や公共が保有する低未利用地を活用して、子育て支援施設の整備を図るほか、老朽化した公共施設の中心市街地内部での更新を行い、都市機能の拡散防止と中心市街地の公共・公益サービス機能の維持を図る。また、古いまちなみを観光資源として活用し、交流の拡大を図る。さらに、〇〇駅を中心とした中心市街地の一部を「滞在快適性等向上区域」に位置づけ、歩道の拡幅などにより歩行者空間を確保するとともに、沿道において、民間事業者が店舗の1階部分をガラス張り化し、テラス席を備えたオープンスペースを整備し、くつろぎの場を提供する「一体型滞在快適性等向上事業」を実施することにより、官民一体となって居心地の良いまちなみを創出する。</p> <p>一方、昭和〇年代を中心に開発された既成市街地外縁部の住宅地では居住者の高齢化が顕著であるが、高齢者は自家用車を使えないため日常生活に必要なサービスを受けることが困難となっている。このため、既成市街地外縁部にある駅やバス停といった公共交通のアクセスポイントを拠点として、既成市街地外縁部において不足している日用品買い回り施設等の生活機能の確保や医療機能の確保、中心市街地の公共・公益サービス機能との連携強化を図る。</p> <p>公的不動産の活用策として、郊外移転した市立病院跡地及び隣接する民間所有の低未利用地を活用して民間活力による官民複合施設の整備を図り、老朽化した図書館の移転先とするとともに、当該図書館移転後に市民ホールの整備など、中心市街地の内部で移転建て替えを順次、玉突きに実施することで、都市機能の拡散を防止と公共不動産の有効活用を図る。</p>
---

<p><b>まちづくりの経緯及び現況</b></p> <p>〇〇市では、「第4次〇〇市長期総合計画」(平成〇〇年度)において、「魅力的で活力ある都心の整備」を主要な施策の一つに掲げ、これを受けて策定された「都心まちづくり計画」(平成〇〇年度)では、都心の骨格構造として4つの軸と3つの交流拠点を定め、この骨格構造を中心に重点的に取り組みを進めてきた。</p> <p>〇〇地区(以下、「当地区」という。)、は、××地域の中心の玄関口であるJR〇〇駅と地下鉄3線が結節する〇〇駅間にあって、都心の骨格構造「にぎわいの軸(駅前通)」「交流拠点を中心とした地区であり、〇〇都心の中核として高次都市機能が高密度に集積した地区である。</p> <p>当地区の北端に当たる地下鉄〇〇駅コンコースは〇〇駅前通公共地下歩道として、JR〇〇駅から駅前通地下歩行空間を結び位置にあり、今後、地下鉄利用者のみならず、多くの人々が行き交う空間となることが想定されている。</p> <p>また、当地区の南端に当たる交流拠点(地下鉄〇〇駅)は地下鉄コンコースでありながら近隣の地下街を結び、地下歩行空間ネットワークの一大結節点となっており、地下鉄利用者のみならず多くの市民が利用する空間となっているが、今後、駅前通地下歩行空間の大通側の接続点となることにより、一層の歩行者数増が想定されている。</p> <p>なお、当地区の全部は、平成〇〇年〇〇月指定の都市再生特別措置法に基づく都市再生緊急整備地域内にあり、その地域整備方針においては、〇〇駅前通、△△通及び〇〇口通を基軸とする歩いて暮らせる豊かで快適な都心の創造に向けた多様な高次な機能が複合した市街地を形成することを目指すとしている。</p> <p>一方、当地区においては、交流拠点において、〇〇市及び周辺地権者による「交流拠点まちづくりガイドライン」の策定(平成〇〇年〇〇月)及び周辺地権者による地区計画の都市計画提案(平成〇〇年〇〇月)など、官民協働のまちづくりが進展しており、現在、周辺の民間事業者においては、ガイドライン・地区計画に沿った建替・地下空間との接続が進んでいる。</p> <p>また、大通以南の商業地区において「〇〇まちづくり会社」が平成〇〇年〇〇月に設立、大通以北の駅前通沿道地区において「〇〇駅前通まちづくり会社」が平成〇〇年〇〇月に設立されたほか、△△地区(△△地区開発事業推進協議会)や××地区(××商店街振興組合)などで、地元によるまちづくり計画策定等の機運が高まっているなど、都心部においてエリアマネジメントが進展しており、今後はより一層、地域自らがまちの価値向上を目指すまちづくり会社などによるエリアマネジメントの取組を推進するとともに、官民協働の都市開発事業を推進する。</p>
--

<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>駅前通地下歩行空間の開業に伴い、地下歩行空間のネットワークが形成され、今後歩行者数の増が見込まれるため、これに対応したゆとりある歩行者空間の整備・充実が求められている。</li> <li>併せて地下歩行空間ネットワークの結節点となる当地区においては、都市生活の豊かさを幅広く支える拠点として利便性の向上やにぎわい機能、文化芸術等の情報発信機能の充実が求められている。</li> </ul>
--

<p><b>将来ビジョン(中長期)</b></p> <p>①第5次〇〇市長期総合計画(2010-2040)(平成〇〇年度策定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩行者を重視した都市基盤施設の整備などによる環境負荷低減と人にやさしい交通の実現</li> <li>〇〇市の活力を高める中心拠点としての機能の一層の集積・多様な都市サービスの提供</li> <li>人のさまざまな交流、情報の受発信、芸術文化活動が活発に展開される場の形成</li> </ul> <p>②都心まちづくり計画(2012-2027)(平成〇〇年度策定)</p> <p>【にぎわいの軸(駅前通)】～目標：〇〇市の目抜き通りとしてのにぎわい、多様性、美しさを創出する・都心の楽しさを味わいながら歩くことができるストーリー性のある通りを形成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地上及び地下における重層的な歩行者空間ネットワークの形成</li> <li>まち歩きを楽しく快適なものにするための公共空間等の多面的な活用</li> <li>情報提供機能、休憩・滞留支援機能等の確保</li> <li>特徴のある結節点の形成</li> </ul> <p>【交流拠点】～目標：人びとの多様な交流を支援するとともに都心内での中心を象徴的に表現する「〇〇広場」の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民や〇〇市を訪れる人びとの多面的な交流を支える機能の誘導</li> <li>歩行者のための、わかりやすくゆとりのある空間の形成</li> <li>建築物と公共空間の調和による象徴的空間の形成</li> </ul>
---

**都市構造再編集支援事業の計画 ※都市構造再編集支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。**

**都市機能配置の考え方**

・郊外部については、広域圏の中核病院となっている市立病院、大型商業施設や大規模工場など、広域的な道路交通の利便性を前提とした都市機能の集積が進んでおり、広域圏の拠点機能を担うものについては郊外部への配置を行う。ただし、大型商業施設については認定中心市街地活性化基本計画に基づく立地規制を行っているところ。  
 ・中心市街地は、本市が歴史的に広域圏の中心都市であった経緯から、鉄道駅やバスターミナルといった公共交通の結節機能、衰退しているものの商店街や企業の支店等を中心とした経済機能、図書館、高校、市民ホール等の公共公益機能をもとより有しているところであるが、古いまちなみの活用と合わせて、市民が愛着と誇りをもてる観光交流機能、教育文化機能の充実を図る。  
 ・既成市街地外縁部については、本市全体で見られる人口減少、高齢化の傾向が顕著な地域であるため、日常生活を支えるサービス機能、地域コミュニティの維持・増進機能の強化を図る。

**都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。**

中心市街地にある市立病院跡地及び隣接する私有の低未利用地を活用し、子育て支援施設と市立図書館の移転を前提とした官民複合施設を整備する。民間事業者に対しては、市有地について定期借地権、適用可能な補助事業の活用等により事業計画の向上の支援を行う。  
 また、同区域内の古いまちなみの一角にある、廃業した老舗旅館について、民間事業者による旅館建物等の再生事業と連携し、高次都市施設(観光交流センター)を整備することで、歴史的資源を活用した魅力の向上に寄与する。  
 既成市街地外縁部の地域については、バスによる中心市街地へのアクセス性を考慮し、バス利用者の利便性を増進するための歩道・駐輪場等の周辺環境整備と並んで地域の日常生活を支えるコミュニティ施設等を整備する。

**居住誘導方針の考え方 ※居住誘導促進事業を活用する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。**

居住誘導促進事業を活用する場合は、居住誘導方針を記載。

**都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等**

都市再生土地区画整理事業や都市・地域交通戦略推進事業の特例を受ける場合は当該事業の概要、位置づけを記載。

**一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォークアブル推進事業の計画 ※一体型滞在快適性等向上事業の場合もしくはまちなかウォークアブル推進事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。**

**滞在快適性等向上区域の考え方**

〇〇駅を拠点とし、駅中心から南側の〇〇通り約200mを目安に滞在快適性等向上区域を設定し、歩道の拡幅などによりゆとりある歩行者空間を確保するとともに、沿道の民間事業者による 歩道と一体となったオープンスペースの創出等により、官民一体となって居心地の良いまちなかを創出する。

**滞在快適性等向上区域での取組**

〇〇通りにおいて、市が歩道の拡幅及び舗装のグレードアップを行うことにより、ゆとりがあり歩きやすい歩行者空間を創出する。  
 また、沿道の〇〇カフェの1階部分をガラス張り化し、テラス席を備えたオープンスペースを創出し、歩行者等にくつろぎの場を提供する「一体型快適性等向上事業」を実施する。

**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				基準年度	目標年度	基準年度	目標年度
歩行者交通量	人/12時間	滞在快適性等向上区域内での歩行者数	官民一体となった賑わいある歩行者空間の創出	●●人/12時間(休日)	RO年度	●●人/12時間(休日)	RO年度
地価変動率	%	滞在快適性等向上区域内での公示地価	官民一体となった賑わいある歩行者空間の創出	●●%	RO年度	●●%	RO年度
歩行者空間の魅力度	%	歩行者空間が「魅力的だ」と感じる人の割合(アンケート)	回遊性の向上、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出によって歩行者空間の魅力度が增加する。	●●%(休日)	RO年度	●●%(休日)	RO年度
滞留している人の数	人/12時間	交流拠点で滞留している人の数(魅力アップによる効果を端的に測定するため潜在的に滞留する人の割合が高い休日を採用)	魅力ある滞留空間・交流拠点の創出によって滞留する人の数が増加する。	●●人/12時間(休日)	RO年度	●●人/12時間(休日)	RO年度
居住誘導区域の世帯数	世帯	居住誘導区域内における世帯数	防災指針及び災害リスクをふまえ居住誘導を支援し、居住誘導区域内の世帯数が増加する。	●●世帯	RO年度	●●世帯	RO年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【四季を通して快適に歩ける空間の創出による都心の回遊性向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとりある歩行空間・見通し確保のための支障物の撤去・移設</li> </ul>	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設 広場)大通交流拠点整備事業                  【基幹事業】(高質空間形成施設 緑化施設等)〇〇駅前通公共地下歩道(地下鉄〇〇駅部)整備事業                  【関連事業】〇〇駅前通地下歩行空間整備事業                  【協定制度等】看板の設置による景観の向上</p>
<p>【魅力ある滞留空間・交流拠点の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・憩い・待合い等のための滞留空間の整備</li> <li>・交流拠点としてのシンボル性を表現した空間形成(地上と地下をつなぐ一体的な空間と動線整備)</li> <li>・利便性向上のためのサービス機能集約</li> <li>・その他交流拠点にふさわしい新規機能導入(情報提供機能の充実等)</li> </ul>	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設 広場)大通交流拠点整備事業                  【基幹事業】(高質空間形成施設 緑化施設等)〇〇駅前通公共地下歩道(地下鉄〇〇駅部)整備事業                  【関連事業】〇〇駅前通地下歩行空間活用推進事業                  【協定制度等】常設オープンカフェ設置によるにぎわいの創出                  【協定制度等】サイクルポートの設置</p>
<p>【居心地が良く歩きたくなる空間づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業施設等と歩道空間が一体となった歩行者空間の魅力的な演出</li> <li>・歩行者の利便性・まちの回遊性の向上</li> <li>・都市公園も含めたエリアの一体的な快適生の創出</li> </ul>	<p>【協定制度等】一体型滞在快適性等向上事業                  【〇〇〇〇】市道〇〇号線歩道拡幅事業                  【協定制度等】〇〇公園でのカフェ設置</p>
<p>官民連携によるまちづくりの取組を記載</p>	
<p>その他</p>	
<p>【〇〇交流拠点まちづくりガイドラインの概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆方針1 都市の中心を表現する広場空間をつくる                     <ul style="list-style-type: none"> <li>●地下鉄△△駅を中心に周辺建物地下部と一体となる広場空間をつくる                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下歩行空間、駅コンコースと建物地下階を広幅員で接続</li> <li>・広場空間での活動を豊かにするため、地下階に市民が気軽にアクセスできる機能を配置</li> </ul> </li> <li>●地上・地下の一体性を表現するシンボリックな広場空間をつくる                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・地上と地下を結びつける空間、装置の設置</li> </ul> </li> <li>●広場空間で多様なアクティビティが可能になる仕組みをつくる                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下鉄コンコースの設置物の移設による見通しの確保</li> <li>・休憩、待ち合わせなどができる空間の確保</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>◆方針2 都市軸のクロスポイントとして印象的で美しい姿とする                     <ul style="list-style-type: none"> <li>●歩行者が滞留できる空間や辻の空間に楽しめる場を設ける</li> <li>●建物の外観や空間の演出により、質の高いデザインの印象的な街角をつくる</li> </ul> </li> </ul> <p>【その他官民協働の取り組み事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇地区推進連絡会によるまちづくり指針の策定(平成22年3月)</li> <li>・〇〇地区市街地再開発事業準備組合の設立(平成21年9月)</li> <li>・都市再生特別地区を活用した民間事業者による大規模開発と広場の整備(予定)</li> <li>・××商店街振興組合、◇◇町商業協同組合、地元町内会等による□□川公園広場の活用検討</li> <li>・中心市街地の活性化のため、市によるメインストリートの整備と民間による沿道店舗のオープン化等を一体的に行うため、官民での検討が行われている。</li> </ul> <p>【重点的に取り組むテーマ】※まちなかウォークアブル推進事業における計画策定支援事業を実施する場合に設定が必要</p> <p>〇〇〇〇</p> <p>当地区及びその周辺における協働型のまちづくりの進捗状況を補足</p>	

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市構造再編集中支援事業)

様式(1)-④-1

交付対象事業費	0	交付限度額		国費率	#DIV/0!
---------	---	-------	--	-----	---------

「都市構造再編集中支援事業」を活用の場合、本様式を使用すること

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付期間内		交付対象事業費	費用便益比B/C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分		
道路		都市計画道路A線	〇〇市	直	△△m			4	8						-
公園		〇〇公園	〇〇市	直	△△㎡			4	8						-
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設		イベント広場、自転車駐車場	〇〇市	直				4	8						1.7
高質空間形成施設															
高次都市施設	地域交流センター														
	観光交流センター														
	テレワーク拠点施設														
	子育て世代活動支援センター														
	複合交通センター														
誘導施設	医療施設	〇〇病院	〇〇法人	間	△△㎡			6	8						1.8
	社会福祉施設														
	教育文化施設														
	子育て支援施設														
	元地の管理の適正化														
基幹的誘導施設		〇〇複合施設	〇〇市	直	△△㎡			6	8						1.8
既存建造物活用事業		〇〇館2階(観光交流センター)	〇〇市	直	△△㎡			5	7						-
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
バリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業															
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
復興促進事業															
エリア価値向上整備事業		〇〇広場	〇〇市	直				4	6						
合計										0	0	0	0	0	1.7

統合したB/Cを記入してください

...A

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付期間内		交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分		
地域創造支援事業															
事業活用調査															
まちづくり活動推進事業															
合計										0	0	0	0	0	

...B

事業	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付期間内		交付対象事業費
					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
居住誘導促進事業													
合計									0	0	0	0	0

...C

合計(A+B+C)









# 市町村決定計画及び市町村施行国道等事業に関する事項

様式(1)-⑤

※該当がない場合は本シートをつける必要はない

## 市町村決定計画

都市施設及び市街地開発事業の種類	決定/変更	名称	その他必要な事項	変更の概要	都市再生整備計画の公告(予定)年月日	都市計画の決定又は変更の期限

## 市町村施行国道等事業

道路の種類	路線名	新設又は改築の内容

### 【記入要領】

・本シートは、都市再生特別措置法の規定に基づき、都道府県が決定する都市計画や国道・都道府県道に関する事業を都道府県等の同意を得て市町村が決定・実施を行う場合に記載。それ以外の場合は、本シートをつける必要はない。

- ・必要な場合は適宜行を追加すること。
- ・「都市施設及び市街地開発事業の種類」欄及び「名称」欄は、都市計画に定められている(定める予定の)内容を記載すること。
- ・「決定/変更」欄は、市町村が新たに都市計画決定しようとする場合は“決定”と、都道府県が既に定めた都市計画を市町村が変更しようとする場合は“変更”と記入すること。
- ・「その他必要な事項」欄は、道路の場合は種別、延長、幅員、車線の数について、公園の場合は種別、面積について、緑地、広場の場合は面積について、河川の場合は延長、幅員について、市街地開発事業の場合は施行区域の面積について、都市計画に定められている(定める予定の)内容を記載すること。
- ・「変更の概要」欄は、「決定/変更」欄に“変更”と記入したものについて、差し支えない範囲において変更の概要を記入すること。
- ・「都市再生整備計画の公告(予定)日」欄及び「都市計画の決定又は変更の期限」欄には、年月日を記入すること。なお、「都市再生整備計画の公告(予定)日」欄に公告予定日を記入する場合は( )書きとすること。
- ・「道路の種類」欄は、“一般国道”か“都道府県道”のいずれかを記入すること。
- ・路線名は、例えば“国道〇〇号線”、“〇.〇.〇〇□□線”などと記入すること。
- ・「新築又は改築の内容」欄は、“電線類の地中化”、“歩道の拡幅に関する改築”等、新設又は改築の具体的内容を記入すること。

〇〇駅周辺地区(★★県〇〇市)	面積	●● ha	区域	〇〇市中央区3~4丁目の各一部、西3~4丁目、東3~4丁目、南3~4丁目の一部
-----------------	----	-------	----	---

【記入要領】

- ・「区域」欄は、計画区域の主な所在地を記入すること。  
例) 〇〇町〇丁目、〇丁目、〇〇町〇丁目の全部と〇〇町〇丁目の一部
- ・一体型滞在快適性等向上事業の場合は、「面積」欄に都市再生整備計画区域のうち、滞在快適性等向上区域の面積をカッコ内に記載すること。



【図面作成上の留意点】

- ・下図は都市計画総括図を使用すること。未都計の場合は、適宜下図を作成すること。
- ・A4横長であれば、縮尺は自由。ただし、必ずスケールバー・方位を記入すること。
- ・都市再生整備計画の区域を赤太線縁取りし、地区名、区域面積を記入すること。
- ・滞在快適性等向上区域を緑色太線縁取り、区域名、区域面積を記入すること。
- ・都市機能誘導区域を橙色点線縁取り、居住誘導区域を青色点線縁取りすること。
- ・地区の相対的な位置関係が明確になるように、国道、高速道路、IC、鉄道、鉄道駅、ランドマークとなるような施設(市役所、文化会館等)については、必ず図示すること。
- ・その他必要な事項は適宜追加してよいが、必ず凡例を記入すること。

〇〇地区(★★県〇〇市) 整備方針概要図(〇〇〇〇〇〇事業)

目標	大目標: ××地域の中心にふさわしい活気に満ちあふれた魅力ある都心の実現 目標1: 四季を通して快適に歩ける空間の創出による都心の回遊性向上 目標2: 魅力ある滞留空間・交流拠点の創出 目標3: 官民一体となった賑わいのある歩行者空間の創出	代表的な指標	歩行者交通量 (人/12時間)	●●人/12時間	「都市構造再編集集中支援事業」「都市再生整備計画事業」「まちなかウォーカー推進事業」を活用する場合、いずれかの名称を( )内に記入
			地価変動率 (%)	●●%	(R〇年度)
			歩行者空間の魅力度 (%)	●●%(休日)	(R〇年度) → ●●%(休日) (R〇年度)
			滞留している人の数 (人/12時間)	●●人/12時間(休日)	(R〇年度) → ●●人/12時間(休日) (R〇年度)
			居住誘導区域の世帯数 (世帯)	●●世帯	(R〇年度) → ●●世帯 (R〇年度)

【図面作成上の留意点】

- ・下図は白図を使用し、縮尺は1/10,000~1/25,000を基本とし、適宜調整すること。スケールバー・方位を記入すること。
- ・都市再生整備計画の区域を赤太線緑取りし、地区名、区域面積を記入すること。
- ・滞在快適性等向上区域を緑色太線緑取り、区域名、区域面積を記入すること。
- ・都市機能誘導区域を橙色点線緑取り、居住誘導区域を青色点線緑取りすること。
- ・計画に位置付けられた事業について、その位置がわかるように旗揚げし、事業名等を明記すること。関連事業についても旗揚げし、関連事業であることがわかるように記載すること。各事業は以下のように標記すること。  
 ■基幹事業、 □提案事業、 ○関連事業
- ・高速道、幹線道、鉄道等の都市の骨格を成す施設及び計画の内容に影響を与える主要な施設を明記すること。
- ・その他必要な事項を記載するときは、必ず凡例を記入すること。



・下絵に使用する地図は、市街化区域等及び用途地域が分かるものを極力使用してください。  
 ※その地図を使用することが困難な場合は、要素事業が市街化区域等及び用途区域の中か外を、判別出来る資料を別途提出してください。



# 〇〇事業事前評価シート

計画の名称: \_\_\_\_\_ 事業主体名: \_\_\_\_\_

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	
2)上位計画等と整合性が確保されている。	
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	